

バケツ洗う洗浄機導入

メグルハナ 従業員負担軽減で

武藤はくせん運営の「メグルハナ」で導入した。武藤尚社長は「働き方改革で職員



メグルハナで導入したバケツ洗浄機

の負担を減らし、業務効率化を図れる優れものです」など語った。スタッフがバケツ一つを洗剤やブラシを使わずに洗い、30秒かかる作業時間が、この洗浄機を使うと洗剤など全て自動になり10秒ほどで作業が終わり、労力は従前の十分の一で済み業務効率化が図れる。

多い時で一日20〜45リットルのバケツを50個以上を手作業で洗うスタッフを見て、かかるとの作業で腰などへの負担を軽くしてあげたいとの思いから梅樽の洗浄機を製造する広島県福山市の会社にオーダーメイドし、17日にメーカー担当者が来市して試運転などを経て生花作業場で活用されている。

様々な形状のバケツを洗うことも可能で、勤務して10年以上になるといって女性スタッフは「バケツ洗いは腰などの負担が大変でした。この機械を使うことで違う作業もできるので導入は有難いです」と話していた。

武藤社長は「バケツ洗いはきつい作業で、機械導入により負担を減らすことで花の製作やお客様に関わるサービスを充実させること

R6. 2 日刊系信

武藤フラワー

負担軽減と効率化

生花カットの新たな機器

市内大黒3、(有)武藤フラワーでは、花の水切り作業を自動化する機械を導入した。水の中で茎を切り、圧力で隅々まで水が浸透。花を長持ちさせるため、従来行っていたお湯に浸ける作業を丸々省くことができる。製造元は長崎市の専門業者で道内では同社が初めて導入。武藤尚代表取締役社長は、作業効率化や生産性向上に向け、積極的に活用したいと意気込む。

同社は従業員の負担軽減など働き方改革の一環で機械化を推進。「花屋の仕事で一番大変なのは下準備」と。昨年10月に導入したバケツ洗浄機に続く第2弾として、ネットで花の鮮度保持に欠かせられない水切り・お湯上げ作業を効率化する機械があることを知った武藤社長が現地に足を運んで実物を目にし国の業務改善助成金制度を活用して導入した。

機械の名称は「タスカッター(助かった)」。カッターを装着した水タンクに生花を入れ、スライドさせて茎などを切る仕組み。水中で作業するため、花が圧力で水を吸い上げるといふ。同社では従来、従業員がハサミで茎を

に浸け、温度差で水を浸透させる方法だったが、機械の導入で、お湯に浸ける作業そのものが不要に。冠婚葬祭など1回に数千本の生花を扱うこともあるため、作業効率向上に繋がっているという。



(有)武藤フラワーで新たに導入した「タスカッター」

面には刃がなく安全性が高い。1回に2人同時に使用できることも(導入の)決め手の1つになった」とし、日々の業務で本格的に活用していくという。武藤社長は、機器の導入で従業員の負担減などがクリア出来たと。機械化で手応えを感じ「各種業務のDX化も進めていきたい」と意気込む。(横山淳也)